

ヒーブレークの時間が短いことと、口頭発表セッションの合間ということで、招待スピーカーとその関係者がなかなかポスター会場に来られないスケジューリングであった。私のポスター発表を聞きに来てくれた研究者も少なからずいたが、少し物足りないと感じてしまった。また、積極的に他のポスター発表を聞きに行き、論文未発表の興味深い内容のものを2,3題見つけた。自分の研究とも関連があるため大いに参考になった。ポスター発表全体の印象としては、発表者がいないポスターが所々あり、ポスター自体の完成度はやや低いものが多いというものであった。

第23回 International Symposium on Glycoconjugates 参加報告

日本学術振興会特別研究員 武田尚子

私は2015年9月15日から20日にかけてクロアチアのスプリットで開催された、第23回国際複合糖質シンポジウム(23th International Symposium on Glycoconjugates)に出席する貴重な機会を頂くことができました。クロアチアは、地中海性気候の温暖な気候で非常に過ごしやすい気候です。また、青い海に歴史情緒のある美しい街並みなどがある場所でもあります。

今大会は、主に複合糖質の生化学が取り扱われていますが、化学系の発表もみられ、糖鎖が引き起こす生理活性についての生化学的な視点だけでなく、化学系の視点からアプローチした発表も多くみられました。

今大会では、ポスターセッションの時間も長く、若手の先生方とのディスカッションをする機会があり、自らの研究の方向性や今後の展開について非常に多くのものを得ることができました。ポスターセッションでは、経口投与で抗凝血作用があるナマコから単離されたコンドロイチン硫酸(FCS)に関する研究が発表されていました。ナマコから単離されたFCSを¹H-NMRなどを用いて構造解析を行い、アンチトロンビンIIIなどの活性を確認していました。現在、様々なナマコから単離されたFCSは研究されていますが、発表者らは構造決定と生理活性をそれぞれ明らかにしていました。

私自身の発表は、軸索再生を阻害する作用をもつケラタン硫酸オリゴ糖の化学合成についてポスター発表を行いました。この発表では化学系だけでなく、生化学の分野の先生方から質問や意見が非常に勉強になりました。今回の会議では、論文などで手に入る情報だけでなく、論文の筆者と実際に会って話すことで、有益な情報を得ることができ

今回の国際会議を通じて、世界レベルで研究者として活躍することが並大抵のことではないことを改めて痛感し、良い刺激を沢山受けた。この感覚を失わないようにして研究を進め、世界のフロントランナーに近付きたい。次の国際会議に参加したときには、「君がドクターカイカ」とより多くの研究者から言われるようになってほしい。

最後になりましたが、本国際会議への参加にあたりご支援いただきました、公益財団法人農芸化学研究奨励会に厚く御礼申し上げます。



写真1 学会会場前

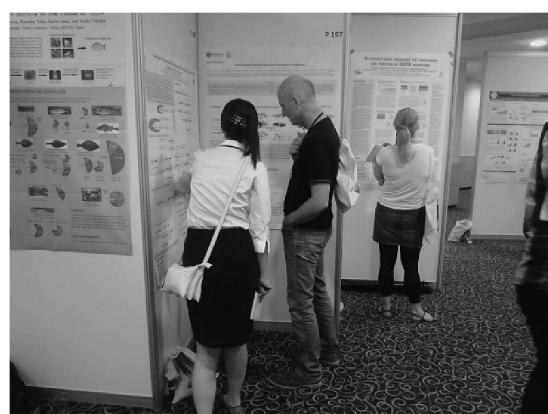


写真2 ポスター発表

ました。また、私自身の研究で、合成化学と生化学の分野を融合するにはどのようにするかを改めて考えさせられました。

最後になりましたが、今回の会議への参加、発表を通して貴重な経験を体験する機会を与えていただいた公益財団法人農芸化学会研究奨励会関係者の方々に、深く御礼を申し上げます。